

第5回 買物公園のあり方検討会議 会議録

日時	令和5年10月23日(月) 18時30分～20時30分
場所	旭川市シニア大学 講座室
出席者	<p>参加者 13名</p> <p>有馬 準氏, 草野 常幸氏, 久保 竜弥氏, 佐藤 真紀恵氏, 四戸 秀和氏, 鈴木 伸治氏, 鈴木 美央氏(オンライン), 高橋 遼太郎氏, 中田 崇太氏, 蜂須賀 咲来氏, 林 亜優氏, 三浦 詩乃氏, 山田 直人氏</p> <p>オブザーバー 4名</p> <p>国土交通省北海道開発局旭川開発建設部 治水課流域治水対策官 結城 憲明氏 道路計画課長 坂本 毅氏</p> <p>北海道上川総合振興局旭川建設管理部事業室地域調整課長 高木 広樹氏</p> <p>旭川市土木部次長 鎌田 昭範氏</p>
欠席者	長尾 英次氏
会議資料	<p>資料: 第5回 買物公園のあり方検討会議</p> <p>資料別紙: 旭川 買物公園未来ビジョン全体構成(案)</p>
会議の公開・非公開	公開
傍聴の数	7名(報道2名)
会議内容	
1 開会	
2 議事	
(1) エリア分析結果について	
事務局	(事務局より, 会議資料P1～P16に基づき, 説明を行った。)
座長	<p>人流データを活用した動態調査, Webアンケート調査などのエリア分析結果について説明を受けた。</p> <p>これらの内容についての意見は, 未来ビジョンの構成案やエリアプラットフォームについての意見と合わせて伺うこととしたい。</p>
(2) 未来ビジョン構成案について	
ア 買物公園エリアに対する想い・期待・ありたい姿	
イ まちづくりの方針・今後の戦略と取組方針	
ウ 社会実験時のエリア戦略	
事務局	(事務局より, 会議資料P17～P22に基づき, 説明を行った。)
座長	これまでの説明などを受けて, 買物公園内の各エリアの特徴や, それ

	<p>らを生かした社会実験時のエリア戦略など、未来ビジョンの構成案についての意見をいただきたい。</p>
参加者	<p>事務局からの説明や会議資料の内容について、参加者の皆様が違和感を感じることを挙げてもらうことも大事である。</p> <p>例えば、会議資料に、効果的な情報発信にかかわる、デジタルサイネージ設置の記載について、私は、他の地域で道の駅の企画を行ったことがあり、そのときも、道の駅で交通情報をデジタルサイネージで流すことを当然のように考えられていたが、自然豊かな場所であり、背後の山並みがきれいなその道の駅において、本当にデジタルサイネージが必要なかと私が問題提起をしたところ、本来の自然の魅力を売っていこう、魅力を大切にしていこうという流れになった。</p> <p>案として資料に掲載されているものについて、まちを愛する皆様にとって違和感があることは、逆にいえば、まちの魅力や大切にしたいこと、本来、未来ビジョンへの掲載が必要なことが、その裏に潜んでいる場合もある。</p> <p>違和感があることについての発言は、ネガティブな意見のようにも聞こえるが、それは否定ではなく、とてもポジティブで大事な意見である。違和感があるものなども意見としてもらうことができれば、今後、未来ビジョンとして大切にしていけるものも出てくると考えている。</p>
参加者	<p>この検討会議において、議論した結果が最終的にどのような形になり、それが買物公園の商店街や店舗で営業する人たち、市民にどのように還元されていくのか、イメージしていくことを難しく感じていた。</p> <p>そのような中、会議資料に盛り込まれている内容について、来年以降に、具体的な施策として少しずつ、地域に還元することができれば、まちを良くしていくことができると感じるようになった。</p> <p>まちをこのようにしていこうというビジョンがあり、このようなことを少しずつ、地域ごとに取組を進めていこうということについて、本日の会議資料により、具体的にイメージしやすくなったと感じた。また、買物公園で営業している立場から見ても、今後、もっと前向きな議論が行われていくことにより、まちをもっと良くしていくことができると感じた。</p> <p>具体的な取組として、「空き店舗ツアー」が挙げられているが、私は事業者として、「新規出店意向のある事業者と空き家、空き店舗、未利用地などの活用可能な空間のマッチング」が具体的に進めば良いと考えている。</p> <p>買物公園については、1条通から8条通まで、何年も空いたままのビ</p>

	<p>ルや空き店舗が多い現状であるが、観光客などが、まちが活性化しており、魅力のあるまちであると思う1つの理由として、シャッターが降りている店舗がなく、建物や通りが店舗で満たされている状態となっていることがあると思う。そのような視点からも、不動産の情報も提示しながら、新しく何か事業をやりたい、買物公園で何かをやりたいという人たちに対して事前に時間をかけて告知を行い、見たい場所を1日で全部見てもらうという取組は、1つのプロモーションとして効率的であり、そのように情報を開示する機会が1年に1回でもあれば、とても面白いと思う。</p>
座長	<p>「空き店舗ツアー」について、事務局はどのようなイメージを持っているか。</p>
事務局	<p>水戸市の事例としては、エリアプラットフォームと商工会議所、地元の建築士会が合同で、「空き店舗ツアー」を開催していた。</p> <p>商店街の空き店舗を1日で巡り、その場で建築士会の一級建築士から、リフォーム、リノベーションの提案があるなど、参加者にとって、具体的な使い方のイメージが湧くように工夫されたものであり、そのような取組を想定して掲載したものである。</p>
参加者	<p>この会議は、未来ビジョンの内容を議論していく場であり、そのために、商店街など買物公園にかかわる団体を代表して参加者が集まっているが、現場の人にしか判断できないことなどもあり、この会議の参加者だけで、それらの団体の意見を出し切ることは難しいと思う。</p> <p>現場の人がどのように考えているのかが重要であり、その人たちを巻き込んでいかなければ、漠然とした内容のビジョンになってしまい、空中分解を起こしてしまうことも心配される。</p> <p>社会実験についても、エリアを絞り、エリアごとに現場の人たちを集め、その人たちが何を求めているのかを具体的に詰めた上で、誰が運営していくのか、実行していく人をどのように育てていくのかなども含めて考えていく必要がある。</p> <p>人がしっかりしていなければ、たとえビジョンを整えたとしても、「それを誰がやるのか」という問題は必ず発生するので、実行してくれる人を育てながら、又は集めたりしながら動いていかなければならないと思う。</p>
座長	<p>今の意見にかかわり、各商店街など、地域への情報提供をどのように行っていくのかなどについて、時期等が決まっているものはあるか。</p>
事務局	<p>地域への情報提供については、現在、市で、各事業者や商店街など、地元の関係団体にヒアリングを行っているところである。</p>

	<p>その中で、本検討会議において、エリアプラットフォームの構築、未来ビジョンのとりまとめ及び社会実験の内容について議論を行っていることを説明しており、今後についても、本検討会議の進捗を見ながら、必要な情報を提供していきたいと考えている。</p>
座長	<p>未来ビジョンについては、適切なタイミングで地域に情報を提供し、しっかりと説明していく必要がある。</p> <p>未来ビジョンに掲げる取組や戦略などについては、社会実験を経てブラッシュアップしていくのか、それとも、固定したものを設定して、それをしっかり維持していくと考えていくのか、2通りの考え方がある。その点については、議論を前提としながらも、社会実験からフィードバックしてビジョンも見直していくというサイクルについても想定しているのか。</p>
事務局	<p>本検討会議においては、これまで、「アジャイルなまちづくり」や「ライトな変化」という意見でまとまってきていると考えている。</p> <p>未来ビジョンについても、策定して終わりということではなく、社会実験を経て、変わらない部分がある一方で、変化する部分もあると考えている。</p>
参加者	<p>会議資料の緑道のエリアの部分に記載のある「ユニークベニュー」とはどのような意味か。</p>
参加者	<p>「ユニークベニュー」とは、コンベンションやMICEに関する用語である。通常、会議や学会は、ホールや会議室で行われるが、例えば、お城がある地域であればお城で行うなど、それぞれの地域の特色が活かせる場所で会議などを行うスタイルのことをいう。</p> <p>旭川には、北彩都ガーデンという素晴らしい場所があることから、会議や交流会、会合、パーティーなどに北彩都ガーデンを活用することにより、地域の特性を生かせるのではないかと提案しているところである。</p>
参加者	<p>地域で事業をされている方や、住んでいる方の思いがどのようなものであるのかが気になっていたので、どこかの段階でその方々の思いをフィードバックしてもらえると、未来ビジョンなどについて、考えやすくなる部分もあると思う。</p> <p>「空き店舗ツアー」については、私の業務としても関わるができると思うので、実現すれば、精一杯お手伝いしていきたいと思う。</p>
参加者	<p>未来ビジョンを策定して社会実験に進む中で、それぞれの街区から代表して出てきている会議のメンバーから出てきた意見の内容だけで進めた場合には、エリアプラットフォームにおいても、やらされている意識が強くなってしまうと思う。</p>

	<p>その参画意識を持つためにも、早めにエリアプラットフォームの組織の構成員を具体化して、未来ビジョンや社会実験のエリア戦略などを話し合い、費用面での優先順位をつけながら、できるものから優先的に、来年度から手をかけていくという形をイメージしているが、その辺りについてはどのように考えているか。</p>
事務局	<p>現在、市で行っているヒアリングについては、本検討会議に参加者を推薦していただいている団体はもとより、他の団体にも意見を聞いている。その中では、エリアプラットフォームへの参画への意思についても確認していることから、参画の意思を確認できた団体などについては、次回以降の会議でお示しすることができると考えている。</p> <p>また、未来ビジョンについては、エリアの大きな方針や将来像を示すものであり、その中には、各ゾーンの特徴も入れ込むことになるが、社会実験の細かな内容までは入れ込むものではないと考えている。</p> <p>社会実験については、将来像の実現のために必要な取組を行うものであり、実験で得られた効果や結果を未来ビジョンにフィードバックすることを考えている。</p>
参加者	<p>会議資料の「未来ビジョンを踏まえた社会実験時のエリア戦略」において、「噴水や緑道に雰囲気ライトを設置し、デートスポット化」というものがあるが、ライトを点けている夜間にも、手の噴水の水を出すというイメージで捉えて良いか。水とライトについてはセットでなければ効果がないと思う。また、手の噴水については、ホテルの関係者等から、始動と停止の時間を延長してほしいとの要望があった。時期についても、今年は去年より終わるのが早く、食べマルシェのときには止まっており、食べマルシェに来られたお客様から残念がる声も上がっていた。</p> <p>「子どもの遊び場（芝生や遊具）を設置」とあるが、街路樹には、倒木の危険性、カラス等の糞害、蜂等の害虫などの問題もあることから、芝生や遊具を設置するときには、これらを考慮する必要がある。</p> <p>3条のエリアにおいて、ICTパークの活用に係る要素を盛り込むことにより、ICTパークと学生などの若者との連携や、音楽を楽しむ場所とのコラボレーションも期待できると考える。</p> <p>今後、細かな点を検討していく際には、これらについても検討が必要があると思う。</p>
参加者	<p>未来ビジョンで、買物公園の将来ありたい姿を示し、ゾーンごとにコンセプトや戦略を定め、その実現に向けて社会実験を行っていくという事は、とても良い方向性であると思う。</p> <p>旭川駅周辺のゾーンについては、大型商業施設があり、マンション建</p>

	<p>築が行われるなど、新しい形の玄関口として再開発が進んでいるという印象がある。七条緑道周辺のゾーンについては、主体的に動くことができる方がいる、しっかりとデザインすることができる方がいるなど、既にコンセプトの方向性がある程度決められていて、その方向に進んでいくことができるという印象がある。</p> <p>最も気になるのは、買物公園の2条から5条までにまたがる2つのゾーンである。これらのゾーンは、買物公園を訪れる人にとって、まさに買物公園といえるゾーンであると考えていることから、これらのゾーンをどのように性格付け、どのような通りにしていくのかが肝になると考える。</p> <p>例えば、3条通にあった歴史のある玩具店が先日閉店したが、その店舗の跡地に開店した居酒屋は、玩具店の看板を残してくれている。今後、社会実験などを行いながら、様々なルールもつくられるものと思うが、このゾーンについては、まちの記憶が残るようなルールをつくることができれば良いと考える。</p> <p>新たな建築物が建てられる場合、古い建築物は全て壊されてしまうことが多いが、古い建築物を上手くリノベーションする、歴史のある看板を残す、使われていたものをオブジェとして残すなど、このゾーンに昔から通っている人の記憶にも残り、新たに来た人にも面白いと思ってもらえるような形にできたら良いと思っている。そのような要素についても、ルールづくりの中に入れてもらえたら良い。</p>
座長	<p>とても重要な指摘である。まちのイメージをどのように維持していくのか、又は発展させていくのかという部分にかかわることである。</p>
参加者	<p>未来ビジョンの構成案について、内容がとても難しいと感じた。</p> <p>未来ビジョンが完成するときには、買物公園にそれほど詳しくない人たちや、お客さんとして買物公園を訪れる人たちにもわかりやすい内容になると良いと思う。</p>
座長	<p>貴重な意見である。市民の方が未来ビジョンを見た際に、買物公園がどのように変わっていくのかが分かるような、シンプルな分かりやすさも必要である。メッセージがどのように伝わるかという問題でもあり、大きな宿題になると考える。</p>
参加者	<p>未来ビジョンについては、分かりやすい言葉や魅力的なキーワードで表現しなければならないと思う。</p> <p>例えば、買物公園の将来ありたい姿として提案されている「“条”ごとの溢れる魅力が連なる買物公園」についても、唐突な感じがあるほか、買物公園そのものがどうなるのかという大事な部分が語られていないよ</p>

	<p>うな印象を受ける。これまでの買物公園の様々な歴史や、歴史を踏まえた次の時代に向けたコンセプトや期待感のようなイメージも感じ取れないことから、コンセプトについては、買物公園の「公園」や広場というものをヒントにして、歴史とつながるようなものがあると良いと思う。また、オリジナルな言葉が「買物公園」のみであり、買物公園が何なのかというイメージを上手く伝えられていないと思う。</p> <p>データ分析の結果について、旭山動物園の来園者のうち、買物公園に来ている人が1割しかいないということは衝撃的な数字であった。買物公園の近隣で働いている人はかなりの数であり、人が目の前まで来ることから、既に近くまで来ている人に対する施策という視点をもう少し強く出せば、具体的な効果を得られる社会実験につながっていくと思う。例えば、市役所の昼休みを45分から1時間に増やせば、買物公園で昼食を食べようという人が増えるかもしれない。買物公園の店舗は、それに昼間の営業時間を合わせていけば、うまくマッチングできるということがあるかもしれない。</p> <p>I C Tパークなど、リモートワークができる施設もあるが、それらの施設に仕事をしに来ている人たちや観光客、市民に対してどういう仕掛けをするのかという、3つの大きな視点で社会実験を行っていくのかについて考えていけば、もう少し分かりやすくなると感じた。</p>
参加者	<p>具体的な取組について、「空き店舗ツアー」については、すぐに実行でき、効果も期待できるので良いと思う。</p> <p>買物公園には、要となるような大きな建物がいくつかあるが、現状では、それらが廃屋になっているなど、厳しい状況を迎えていると思う。それらの建物や大きな土地が、商業的な意味合いで例えば駐車場になる、又はマンションになることなどに対する働きかけなど、何かできないかということについて、強くもどかしさを感じる。</p> <p>先日、札幌の狸小路に新しくできた水族館に行く機会があったが、狸小路という、昔からある商店街兼繁華街のような場所に水族館という施設ができたことにより、家族連れや若者などが多く遊びに来ており、現状では成功していると思う。水族館が入る同じ建物の中にはコワーキングスペースのような場所もあり、休憩エリアも併設されていた。そのスペースにパソコンを持ち込み、仕事をしている人も実際にいたことから、そのスペースについても上手く活用されていると感じた。</p> <p>また、東京に行く機会があり、東京スカイツリーにある商業施設を見てきたが、飲食店や服屋などの様々な店がある中で、水族館、プラネタリウム、動物に触れ合うことができる場所のほか、子どもを遊ばせるこ</p>

	<p>とができる施設もあった。様々な人が、一日中過ごせるような形になっており、例えば、小樽水族館や旭山動物園などの大きな施設ではなくても、小さなものでも、人を集めることができると感じた。</p> <p>自分の認識が少し変わった部分もあり、そのようなこともできたら良いと思う一方で、大きい建物などが空いていることは、やはり気になる場所であり、社会実験についても、そのような場所を利用するなど、方向性を持って動いていくことができれば良いと思う。</p> <p>また、今後、エリアプラットフォームが構築された際には、例えば、空き店舗や空き地をどうにかしたいという場合に、エリアプラットフォームで連携しながら、行動を起こしていくことができるということも期待している。</p>
座長	<p>大きな敷地や駐車場がどのように変わっていくのか、その方向性が見えないことも大きな要素であることから、未来ビジョンの中で、それらに対してどのような方針をつくっていくのかについて、検討していくことも大事である。</p>
参加者	<p>社会実験は、エリアを絞って集中的に実施するものなのか。それとも、買物公園全体で実施するものなのか。また、それらはまだ決まっておらず、これから決定していくということなのか。</p>
事務局	<p>社会実験については、駅前周辺に滞在している人はいるが、そこからの回遊の広がりがなく、歩く距離が長くなれば回遊が少なくなるなどの課題に対し、複数の箇所を目的地となるような滞在空間の設置や移動を補助するようなモビリティの導入などによる実験を行い、今後、策定していく未来ビジョンの実現に向けた第一歩としていきたいと考えている。</p>
参加者	<p>まちなかの店舗に行きたいと思い、バスに乗ろうとしても、例えば動物園から来るバスは観光客で混雑しており、乗りたくないと思ってしまうことも多い。さらにバスの本数が減ってきていることも加わり、バスが利用されないという負のループにつながっているのではないかと思う。バスをはじめとする公共交通機関がもっと利用されるようになれば、まちなかへの人の流れもスムーズになってくると思う。</p> <p>以前、買物公園では、ダンスなどのパフォーマンスを行っている人やストリートミュージシャンが現在よりも多かったというイメージがある。減った理由として、新型コロナウイルス感染症の影響もあるのかもしれないが、以前は、買物公園がパフォーマンスを披露できる場、音楽を楽しめる場であったということもいえると思う。個人的には、それは良いことであり、買物公園がそのような場として存在していくことが、</p>

	<p>今後の賑わいにもつながっていくものと考えている。</p>
参加者	<p>旭川デザインセンターから買物公園に立ち寄っている人が割と多い。理由は不明であるが、デザインセンターのスタッフから聞くところによると、家具を購入する人の約半数が、関東などの道外の方であるとのことであり、デザインセンターが、家具のまちである旭川の家具を購入するために訪れた方々に対して、旭川の観光を案内するような役割を果たしているのではないかと考える。</p> <p>旭山動物園の来園者の買物公園への立ち寄りが少ないということから、旭川に来ている人は、旭山動物園だけを目当てで来ているという印象を強く受けたが、旭川を堪能するに当たり、買物公園はとても面白い場所であることから、移動の待ち時間などに立ち寄ってもらえるようになればと良いと思う。</p> <p>買物公園のゾーンごとの特徴について、外から見た人の感覚では、まさにこの会議資料のとおりであるとの印象を受けたが、実際にそのゾーンで活動している人や、店舗を構えている人の印象も重要であることから、例えばアンケートなどでそれらの方々からの意見も合わせることで、より、本当の意味でのゾーンの特徴が見えてくると思う。</p> <p>そのような特徴が分かれば、デザインの観点から見ても、それらを前面に押し出すためのアピールの方法も見えてくると思うので、外にいる人の感覚と中にいる人の感覚を融合しながら考えていくことができれば良いと思う。</p>
座長	<p>例えば、デザインセンターなど、目的を持ってその場所を訪れる人に対する買物公園についての情報提供、また、買物公園からそれらの場所に対する情報提供については、更に連携することにより、効果的に行っていくことができると考える。</p>
副座長	<p>社会実験の領域については、まずは、買物公園は道路のことを指すのか、それとも、その周辺の店舗なども含めた買物公園エリアを指すのかについての整理が必要である。歩きたくなるまちづくりとして、路上だけでなく、路上とその周辺の建物の特に1階の部分が連携することにより、それまでにはなかった相乗効果を生み出していくような実験が、最近、全国各地でよく行われている。買物公園についても、プレイヤーが集まるのであれば、沿道のほか、東西2街区も含めて考えていくという方法もある。</p> <p>空き店舗ツアーに関連して、空き店舗が埋まればそれで良いのかということも1つの論点であると考え。買物公園においても、3条通周辺には居酒屋などの飲食店も増え、いわゆる「サンロク化」が進んでいる。</p>

	<p>それらの店舗の中には、買物公園でなくてもできることを売りにしているような店舗も見受けられるが、同じ飲食店でも、買物公園を資源として考えてくれるような方々に入ってもらおうなど、どのような方たちに入ってきてほしいのかをある程度明確にした上で、社会実験を、その価値を発信する場として捉えていくという方法もあると考える。</p> <p>社会実験について、会議資料では、旭川駅から南北に延びる矢印で方向が示されているが、新たなモビリティを導入していくということであれば、東西の方からも人が日常的に来ていることや、先ほどバスの話も出たが、エリアの外からも人が来ているということも考えながら導入したいコンテンツを整理していけば、社会実験の可能性も広がってくる。</p> <p>皆様の声を聞く中で、買物公園のエリアプラットフォームについては、これまでも様々な方がかかわっており、初代のエリアプラットフォームとして取りまとめていくことはかなり大変なことだと改めて感じている。1人のディレクターがやる気だけで引っ張っていくことは難しい部分もあり、チームとして運営していく必要があると考えるが、チームとしてかかわっていく人たちに相応の報酬を用意できるかなど、持続的な運営にかかわる課題も非常に多い。非常に可能性を秘めているエリアであるが、エリアプラットフォームに手を上げやすい環境を整えるためにも、今後、運営体制についてはしっかりと議論していかなければならない。</p> <p>そして、この検討会議では複雑な議題を扱っているが、固い雰囲気の中でアイデアを出すことは非常に難しいことから、残り数回の会議の中では、ワークショップ形式などにより、各テーブルで、ある程度砕けた議論もできると良い。</p>
事務局	<p>買物公園の周辺で働いている人など、すでに買物公園の周辺に来ている人たちの滞在を促すことは、最も可能性がある部分であり、未来ビジョンや社会実験においても、しっかりと対応していきたいと考えている。</p> <p>空き店舗に入ってほしい業種等については、皆様の中でも想いはあると考えている。一方で、空き店舗や空きスペースが長期間にわたって存在することでイメージが悪くなるという御意見もあったところであり、今後、未来ビジョンなどで、皆様が望んでいるものの方向性を示していくことが、まず第一歩になると考えている。</p> <p>社会実験について、会議資料では南北の方向のみ示しているが、当然ながら、南北だけではなく、東西の方向も含めてあらゆる方向から人は来ていると考えている。エリアの分析結果から、駅の周辺に滞在が集中</p>

	<p>している状況や、4条以北の滞在者は広い範囲で動いている状況が確認できたところであり、社会実験については、エリア全体を見ながら、エリアの中に来られた方をどのように動かすかということに視点をおいて行っていきたいと考えており、次回以降の会議においては、具体的に、考え方を提示していきたいと考えている。</p>
参加者	<p>2条通から4条通までのゾーンには、オフィスビルが集積している状況から、テーマが設定されるものと考えている。中心市街地活性化基本計画でも考え方が示されているが、そこから一步踏み込み、期待感を出せるようなことを社会実験で示していくという方法もあると考える。オフィスで働く人たちが昼にお弁当を食べに出てくるだけではなく、会議などでも買物公園を使えるように仕掛けていくなど、新たな取組であると思ってもらえることも必要である。</p> <p>旭川駅周辺のゾーンの性格もやや曖昧であると感じている。旭川駅や北彩都ガーデンを有するこのゾーンには、川やガーデンが、そこに居住する人たちのライフスタイルの中に入っており、豊かな生活ができるというテーマ設定が合っていると考えている。また、その居住者のライフスタイルを観光客がなぞって楽しむということも考えられる。北彩都ガーデンから駅前広場を通じて2条通の辺りまでを北彩都ガーデンの延長であると捉え、一体となった空間として見てもらえるようになれば、朝に散歩をする、夜に歩いて帰る、ランニングなど、このエリアでできるのではないかと考える。</p>
座長	<p>例えば、「ここに来れば、このようなことができる」という表現も必要であるとする。行政側からの視点での表現に加え、市民の方からの視点で、「このようなことができる」、「このような楽しいことがある」という表現の仕方もある。</p> <p>先ほどの「未来ビジョンの内容がとても難しい」という意見も重要である。未来ビジョンは、最終的には、誰かに分かってもらうために策定するものであり、特に市民の方に、「買物公園はこうなるのか」と思ってもらえるようなメッセージの発し方を考える必要がある。現状の案は表現が固い感じを受けることから、皆様からも、良い表現の方法などの提案があれば、意見を出していただきたい。</p> <p>逆説的な話になるが、未来ビジョンについては、内容を盛り込めば盛り込むほど、自分事にならないという側面もある。何かをやりたいと思う人たちが、やりたいと思うことを実現できるというプロセスが大事だとすれば、未来ビジョンでは、例えば、一体感を持たせたい部分など、ある程度のことまでを伝え、その後は、やりたい人に色々考えてもらう。</p>

	<p>そういう人たちを集めていくという方法、一旦引いた所から人を巻き込む戦略というものも入れていく必要もある。</p> <p>具体的には、社会実験についてはエリアの人たちを巻き込み、様々な人に声をかけ、やりたい人に集まってもらうための場を持ち、ある程度はそこに委ねていくということである。これをどのタイミングで行うかについては、情報の出し方とセットになっているので、情報を出して、社会実験をここでやりたいという理解を取り、その後は、やりたい人に集まってもらうという、出入りが自由な場を設定してみることも、可能性としてはある。そのような場から、エリアプラットフォームのメンバーになっても良いという人が生まれてくるかもしれない。また、ここで何かをやりたいという具体的な話も出てくるかもしれない。</p> <p>できる場所、物理的な条件、連携できる施設などは、ある程度限定される部分もあることから、「このような狙いを持った社会実験を行う」ことを特定させて、その後は、ある程度、エリアプラットフォームに委ねることができると思う。</p>
副座長	<p>他の地域のエリアプラットフォームの状況を見ると、社会実験については、参加する人の参画意識の醸成やチームづくりができれば、それで成功といえる部分もあると思う。</p> <p>一方で、空間の活用の仕方もあることから、専門家の声も生かしながら、どのような狙いとするかについて整理した上で、空間も活用できるという形にできれば良い。</p>
座長	<p>歩きたくなる、人が歩いて良いと感じる距離である「300メートルの壁」を突破するためには、周辺の店舗や様々な施設、エリアにいる人たちと話し合っ決めていかなければならない部分もあることから、ある程度の時期には、地域の理解を得ていくことが必要になる。</p> <p>そのことについては、次の議事であるプラットフォームにもつながってくることである。</p>
(3) エリアプラットフォームについて	
事務局	(事務局より、会議資料P23, P24に基づき、説明を行った。)
参加者	<p>未来ビジョンを策定して買物公園を良くしていこうという試みについては、例えば、5年後や10年後にも継続してアップデートしていけば良いことであると思うが、まさに今、旭川の歴史をつくって来たともいえるファッションビルが、その歴史を終えようとしているところであり、その跡地が、今後、駐車場やマンションになるのかどうかはとても重要なことであると考えている。</p> <p>買物公園においても、3条通については、夜の顔であるサンロク街に</p>

	<p>も面する重要な通りであり、その昼の顔ともいえるファッションビルがどうなるのか、時間がない中で、タイムリーな危機感が市長にも伝わっているのかが気になっている。</p> <p>今後、細かな議論を重ねていったとしても、そのファッションビルのような、旭川のメインともいえる部分の今後が見えていなければ、今後も様々な支障を来すと思う。</p>
事務局	<p>今の発言にあったファッションビルについては、個別的なことであるが、まちづくりにかかわる重要な案件であり、様々な話をお聞きしているところである。お聞きした情報などについては、市長ともしっかりと共有し、市としてどのようなかわり方や支援などができるか、又はできないかも含めて検討している状況である。</p>
座長	<p>この個別の問題については重要で、事態も切迫していることについては理解した。</p> <p>一方で、未来ビジョンには、直接的に、個々の跡地がどうなるべきかということまで描くことはできないが、その部分も含めて、沿道の建物があるべき方向性については触れていくことはできると考えている。</p>
参加者	<p>全体の方向性としては、中心市街地に人が集まらなくなっている、中心性が弱まっていることに対し、それをなんとか回復させる、もう1度人を呼び戻す、人がつながって訪れたいという段階まで続けるということだと思う。それを実現させる戦略や方法を考えていく組織として、エリアプラットフォームがあると理解している。</p> <p>すでに様々な活動をされている人たちはいるものの、連携が希薄なために上手くいっていないということはあると思うが、結局は、その戦略や、具体的に解決する策を練る人がいない、リソースがないということであると思うので、その戦略をしっかりと考え、シンクタンク的な機能に様々な人が協力する流れをつくっていくことが必要であると考えている。</p>
副座長	<p>今までの取組を重ねて、かつ新しい風を吹かせなければならないという中、ディレクターの方が担う役割はとても重要である。</p> <p>他のまちでは、ディレクターを外から連れてくることもあるが、買物公園にはおそらく合わないと考える。そうなると地元で、様々な立場で活躍されている方にいかにかかわってもらおうかということになるが、リソースの問題がある。</p> <p>エリアプラットフォームについても、その問題がかかわることから、新たな職能を持たせることなどについても議論していかなければ、動いていかない部分もあると考える。</p>
参加者	<p>会議資料には、エリアプラットフォームは、基本的には事業主体にな</p>

	<p>らないと記されているが、ただ集まり、情報の共有を行うだけではもったいない。事業を行っていくのは現場の人間であり、エリアプラットフォームがそれらの人たちをエリアごとにつないでいく、市民と事業者をつないでいくという機能を担っていかなければ意味がないと思う。</p> <p>先ほど、未来ビジョンの構成案の内容が難しく、分からないとの意見も出たところであるが、現在の案は、主に行政や事業者からの視点が強く、市民から見たときに分かりづらいつと感じることから、エリアプラットフォームから、もっと暮らしや過ごし方が見えてくる情報の発信を行っても良いと思う。</p> <p>例えば、「朝は北彩都ガーデンで朝食をとり、駅前の大型商業施設で少し遊んだ後、ランチは2条か3条の辺りでとり、5条に移って子どもと遊び、3時頃には7条緑道のこのカフェに行けば、1日を素敵に過ごすことができる」というようなプランを毎週のように発信、提案していけば、そのように過ごしてくれる人はかなり多くなると思う。このように、もっと自分の行動が目に見えてきて、楽しそうだと思うような仕掛けを発信していくことが大事だと思う。</p> <p>イベントについても、現在は分散して行われているが、それらの情報をエリアプラットフォームが集約し、例えば、「この日は午前中に3条辺りで遊び、5条のイベントに流れ、その後は7条のイベントに流れましょう」というように、そのような情報を発信できるような機能になっていかなければ、ただ情報を集めるだけではもったいないと思う。</p>
座長	<p>エリアプラットフォームは、未来ビジョンを実現するための組織であり、将来的には、資金も含めて持続的に回っていく、自走していく組織を目指すことが大前提である。当面は事業主体にならないにしても、未来ビジョンの実現のために、情報発信などは戦略的にやっていく主体であるということを確認させていただきたい。</p>
(4) 今後のスケジュール	
事務局	<p>事務局から今後のスケジュールについて説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は、12月19日(火)の18時30分からを予定 ・場所は、旭川市役所総合庁舎(新庁舎)会議室を予定
3 閉会	